東大谷高等学校
校長　吉永雅也

令和７年度　学校経営計画及び自己評価

１ めざす学校像

「人間教育をする進学校」

建学の精神「報恩感謝」を柱とした宗教的情操教育の良き伝統を堅持し，男女を問わず，周囲に感謝して生きる喜びを感じ，何事に対しても前向きに取り組むことができる，そしてグローバル化する社会で活躍，貢献できる「品格と礼節」を備えた生徒を育成する。

① 建学の精神の涵養　―宗教的情操教育を堅持し，我国の伝統と文化に基づく「品格と礼節」を備えた人間を育成する学校―

② 安心安全な学校づくり　―生徒たちが安心して夢を実現するための準備をする安心安全な学校―

③ 確かな人間力の育成　―高い志を培うとともに生徒の進路希望を実現する学校―

④ さらなる特色づくり　―各コースの教育内容のさらなる充実を図り，生徒・保護者に期待される学校―

２ 中期的目標

1　建学の精神の涵養　―宗教的情操教育を堅持し，我国の伝統と文化に基づく「品格と礼節」を備えた人間を育成する学校―

(1) 宗教行事や宗教の授業において，建学の精神を理解させる。
(2) 日々の朝礼・終礼，講堂朝礼を徹底し，東大谷生としての自覚，感謝のこころを育む。
(3) 花まつり，報恩講，了秀忌等の宗教行事だけでなく，すべての学校教育を通して建学の精神「報恩感謝」の念を育む。
(4) 全教職員に対して本校の宗教的情操教育のあり方を常に確認・共有し，全教員一致して教育にあたる。

2　安心安全な学校づくり　―学校は，生徒たちが安心して夢を実現するための準備をする安心安全な学校―

(1) 防災対策・危機管理体制を整え，生徒が常に考え行動できる指導を徹底する。
(2) 伝統の生活指導を徹底し，グローバル化する社会に必要なマナーを身につけさせる。
(3) 教育相談体制を充実させるとともに，生徒の個性に応じた身体と心の健康づくりを進め，安心・安全な学校づくりを推進する。
(4) 家庭への情報発信を密に行い，学校・家庭が一体となった教育を徹底する。
(5) 地域の幼・小・中学校，自治会等との連携をすすめ，地域とともに生徒の成長を育む教育を推進する。

3　確かな人間力の育成　―高い志を培うとともに生徒の進路希望を実現する学校―

(1) 生徒が主体的に学ぶことができる授業改革を進め，高い志を育むとともに，「人間教育をする進学校」という評価を定着させる。
(2) 本校独自の取り組みである「10 年未来プロジェクト」の充実と教員の授業力の向上をはかる。
(3) グロ－バル化が進む社会で活躍する人間の育成のために，授業における ICT 機器の活用を図り，国際理解教育を推進する。
(4) 教職員の授業力の向上を最重要課題とし，公開授業，研究授業のほか時機を得た適切な研修を取り入れる。
(5) 生徒会活動・学校行事や部活動を通して，仲間とともに創造する喜びと困難を乗り越える力，リーダーシップを育む。

4　さらなる特色づくり　―各コースの教育内容のさらなる充実を図り，生徒・保護者に期待される学校―

(1) 大阪大谷大学との高大連携をすすめ高大一貫の教育をめざし，大学卒業までを見据えて生徒自らが意欲を持って学習できる体制を作る。
(2) 海外語学研修や短期長期留学制度を充実させ，積極的な国際交流を図る。豊かな語学力に裏付けられた国際感覚を育成できる体制を作る。
(3) 外部受験において生徒が目標をかなえられるよう，教員が連携し一人ひとりの生徒にきめ細かい指導を行う体制を作る。

【学校教育自己診断の結果と分析・学校協議会における提言内容】

学校教育自己診断の結果と分析［令和 7 年 12 月実施分］	学 校 協 議 会 に お け る 提 言 内 容
＜令和 7 年度について＞ 1. 成果・強み（高評価・好調な点） （高い学校満足度） 「入学してよかった（行かせてよかった）」の肯定率は教員 98.0%、保護者 92.3%、生徒 88.6%と非常に高く、学校全体への信頼が維持されています。 （丁寧な生徒対応・安心感） 悩みの相談対応や人間関係、防災・安全対策について生徒・保護者・教員いずれからも高い評価を得ています（悩み対応は前年比+5.1%）。 2. 課題・改善点（前年比で低下が目立つ点） （保護者への情報共有・連携不足） 学校からの情報発信や連携に対する肯定的評価が減少しました（生徒評価前年比 −11.2%、保護者評価前年比 −7.4%）。 （進路・科目選択に関する支援） 「科目選択のしやすさ」（保護者前年比 −19.5%）や「進路情報の十分さ」（保護者前年比 −10.3%）で評価が大きく低下しています。 【今後の方向性】 保護者への情報発信強化（連絡ツールや広報の運用見直し） 進路・科目選択に関する説明やサポート体制の充実 ＜前年度の比較について＞ 1. 全体傾向 教員側の指導意識や生徒対応・危機管理の評価が向上した一方、保護者・生徒側では「情報提供」「進路・科目選択」「生活指導」に関する満足度が低下しています。 2. 評価が向上・改善した点（R6 → R7） （教員の生徒対応・指導の充実） 教員による「生徒の悩み対応」（前年比 +5.1%）や「人間関係の構築」（前年比 +9.2%）の肯定的評価が向上しました。 （危機管理・安全対策の強化） 学校の防災・安全対策に対する教員の肯定的評価が増加しました（前年比 +6.0%）。 3. 評価が低下・課題となった点（R6 → R7） （進路・科目選択に対する不満の増大） 保護者による「希望に応じた科目選択」（前年比 −19.5%）および「進路情報の提供」（前年比 −10.3%）の評価が大きく低下しました。 （基本的生活習慣・生活指導） 保護者による「生活指導が行われている」との評価が減少しました（前年比 −12.6%）。 （情報共有・連携の減少） 「学校からの情報共有・伝達」について、生徒（前年比 −11.2%）・保護者（前年比 −7.4%）ともに評価が低下しました。 （生徒の満足度の陰り） 「本校に入学してよかった」と答えた生徒の肯定的評価が低下しました（前年比 −7.8%）。 【総括と改善策】 教員の現場対応力や指導意識は高まっているものの、「保護者・生徒への情報発信や説明の不足」が評価低下の主な要因と考えられます。今後は、科目選択や進路指導のプロセスをより分かりやすく開示・連絡する取り組みが求められます。	1. 入試広報・集客に関する意見 （ターゲット層の絞り込みについて） 「真面目で落ち着いた生徒」をターゲットにするという広報戦略は、ミスマッチを防ぐ意味でも非常に有効である。 （広報の質について） オープンキャンパスでの若手教員による説明が、熱意が伝わりやすく参加者（保護者・中学生）から非常に好評であった。 誇大広告をせず、ありのままの学校の姿を伝える「ファクトチェック」の姿勢を継続すべきである。 （地域連携の強化） 近隣の中学校（三原台中学校など）とのジョイントコンサートといった行事を通じて、足元の地域（南区周辺）での認知度とつながりをさらに深めるべきだ。 2. 進路指導・高大連携に関する質問と意見 （薬剤師育成プログラムの継続性について） 学年が上がるにつれて履修者が減る現状に対し、3 年間継続した生徒が確実に内部進学できるような、より魅力的な仕組み（新枠組み）が必要ではないか。 （教育養成プログラムの展開について） 小学校教諭だけでなく、幼稚園や特別支援教育など、多様な免許取得に対応できる体制を整えてほしい。 こうした魅力的な取り組みをもっとホームページ等で外部に発信していくべきだ。 （進路傾向の変化について） 近畿大学病院の開設に伴い、看護系への関心が高まっている現状をうまく進路指導に活かせるのではないか。 3. 学習指導・教育内容に関する意見 （生徒の思考力低下への懸念） AI の普及や入試科目の軽量化により、生徒の「抽象的な思考力」が弱まっている。大学合格をゴールにするのではなく、生涯続く「学習習慣」や「教養」を身につけさせる指導が必要だ。 （宗教教育と人間形成） 「緩和（人前での話）」などの宗教的行事を通じて、他者との縁や感謝の心に気づかせる教育は、本校の大きな特色として今後も大切にしてほしい。 4. 学校運営・スクールバスに関する質問 （スクールバス廃止の影響について） バス廃止により近鉄沿線からの志願者が減ることは避けられないが、在校生（現在の 1 年生）が卒業するまでは責任を持って運行を継続してほしい。（※学校側より「令和 8 年度までは継続する」との回答あり） （教職員の負担軽減について） 入学者が増える一方で、教職員が一人二役をこなしている現状がある。少子化を見据え、少ない人数でも回るような業務の効率化や情報共有の仕組み作りを急ぐべきだ。 5. 学校評価について （アンケート結果の分析） 1 年生の満足度がやや低下している点について、専願合格による「燃え尽き」やモチベーション低下への対策が必要ではないか。 一方で、上位クラス（特進など）の生徒の学力が向上しており、学校の中で切磋琢磨している状況は評価できる。

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自　己　評　価
1 建学の精神の涵養	(1)宗教的情操教育による豊かな人間性の涵養 (2)伝統の継承	(1) ①感話を中心とした宗教的情操教育の取り組みにより「見落とされがちな関係への気づき」 ② 宗教行事を通じて生徒に宗教的情操を身につけさせる。 ③ 生徒に宗教行事の運営に参画させる。 (2) ④ 6月に1年生の研修を実施し，東本願寺参拝を組み込み，東大谷高校のルーツを体得させる。 ⑤ 同窓会と連携し，文化祭で在校生との交流を行い、本校の伝統継承のきっかけを作る。	①管理職による点検 ②生徒感想文集「聞思」 ①②生徒評価（90%） 保護者評価（90%） 職員評価(90%) ③参画実績 ④実施実績 ⑤実施実績	①朝終礼は適宜参加し厳粛に行われた。評価は保護者 92.4%（○）職員 94.1%（○）。 ②「聞思」等により、宗教行事での講話や宗教の授業での生徒感話を生徒が振り返られるようになっているものの、生徒評価は 85.3%と目標に達せず。日々の気づきを共有することの意義を実感させたい（△）。 ③講堂朝礼は，宗教委員に運営にあたらせるとともに有志の導唱･伴奏により各学年とも厳かに行われた（○）。 ④6 月に東本願寺参拝を実施（○）。 ⑤同窓会と連携し、展示＆交流会を実施（○）。
2 安心安全な学校づくり	(1)日常から安心安全に対する意識を持たせる (2)自律的生活習慣の確立 (3)マナーとモラルの指導	① 防災マニュアル・危機管理マニュアルを見直す中で全教職員が再認識し，防災危機管理意識をさらに高める。 ② 安全に対する意識の向上を図るため，防災避難訓練や薬物乱用・SNS 利用についての講演会の内容を充実させる。 特に ICT を多用するために情報モラル教育の推進を図る。 ③ 社会人としてのマナーや高校生としてのモラルを身につけさせるために登下校指導，服装指導等，生活指導部を中心に全教職員で取り組む。 ④ メンタルサポート体制を強化。 ⑤ 保護者に学校情報を伝えるために，家庭との緊密な連絡体制を持続しホームページの充実を図る。	①教員評価（90%） ②生徒評価（90%） 生徒感想文 ③生徒評価（90%） ④生徒評価（90%） ⑤保護者評価（90%）	①安全対策に対する教員評価は 88.2%と目標に少し届かず（△）。 ②生徒評価が 84.2%（△）次年度は 90%をめざす。 ③登下校指導を継続実施するとともに，折に触れて講堂朝礼や終礼放送でマナーの徹底を促す。生徒評価は 74.3%（×）と昨年から大きく下回る。 ④保健室およびスクールカウンセラーの 2 名体制であるが，生徒評価は 75.2%（△）、次年度は 90%をめざす。 ⑤ホームページの充実とさくら連絡網の運用により保護者評価は 87.1%（△）、次年度は 90%をめざす。
3 確かな人間力の育成	(1)「10 年未来プロジェクト」の推進 (2) 主体的な学習態度の育成 (3) リーダーシップの育成	①「10年未来プロジェクト」「探究ゼミナール」等のアクティブラーニングと，教科でのアクティブラーニングの充実を図り，学ぶことの楽しさを教え，学ぶ意欲を育む。 ② フォーサイト手帳を導入し，生徒の PDCA 活用力を養うことで自主学習能力を高める。 ③ 生徒会活動・部活動のさらなる活性化・効率化を図る。 ④ 部活動では地域の小中学校や住民との交流を通じてリーダーシップを育み競技に対する意識の変革をもたらす。 ⑤ ボランティア活動を通じて社会に貢献する。	①生徒評価（80%） 「探究ゼミナール」 プレゼンテーション生徒感想 ②生徒評価（80%） ③部活動生徒評価（80%） 生徒会活動実績 ④活動実績 ⑤活動実績	①「10 年未来プロジェクト」実施は生徒が将来について考えることに寄与している（評価 85.2%）「探究ゼミナール」はポスターセッションを実施，各班とも内容の濃い発表であった（○）。 ②生徒の自主学習評価 76.5%（△）フォーサイト手帳は教員のサポート状況により効果が大きく変わるため全担任による働きかけを強化。 ③生徒評価(行事 77.7%部活動 78.6%)も昨年より向上，来年は 80%をめざす（△）。 ④三原台校区健全育成協議会主催の「吹奏楽部ジョイントコンサート」参加（○）。 ⑤ボランティア活動として生徒会役員が止揚学園の訪問を行う（△）。
4 さらなる特色づくり	(1) 大谷学園の強みを活かした教育力向上 (2)各コースでの特色をさらに充実させる	① 大阪大谷大学との教員交流を推進し高大連携を強化し，本校教員の教育力向上を図る。 ② 進学コースでは，高大一貫教育システムとして薬剤師育成プログラム，教員育成プログラムの内容充実を図る。 ③ 国際コースでは，留学制度を充実させるとともに，帰国生徒にサポート授業を実施し 4 技能の向上を図る。 ④ 特進コースでは，10 年未来プロジェクトと BT を活用し、3 年間の指導計画を構築することで，国公立 20 名，関関同立 60 名の進路希望を実現する。 ⑤ オープンキャンパスを中心とした説明会の機会を多く設け，本校の認知度をあげ，多くの情報を受験生や保護者に発信する。	①管理職による点検 ②実施状況 ③留学生 30～40% 資格試験実績 ④合格実績 ⑤入試説明会アンケート 中学校や塾からの意見 志願者数 800 名 入学者数 320 名	①②大阪大谷大学と高大連携のさらなる発展計画についての意見交換会がなされた（○）。 薬剤師育成プログラム，教員育成プログラムともに、順調に実施できている(○）。 ③NZ 留学に 39%の生徒が参加。 英検準 1 級 2 名(○）。 ④国公立 9 名（△）は昨年より減少。 関関同立 39 名は昨年より減少（△）。 ⑤オープンキャンパス･説明会は参加者を昨年より多数集め、志願者 866 名（○），入学者 356 名（○）。 ※併願合格者の戻り率は 8.5%（昨年 6.2%）。